



Title	日中両語の音節長の特徴と効率的な日本語発話の基盤形成：中国語母語話者による適切なCV音節長とその定着 [論文内容及び審査の要旨]
Author(s)	藤田, 守
Degree Grantor	北海道大学
Degree Name	博士(国際広報メディア)
Dissertation Number	甲第16039号
Issue Date	2024-06-28
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/92797
Rights(URL)	https://creativecommons.org/licenses/by/4.0/
Type	doctoral thesis
File Information	FUJITA_Mamoru_abstract.pdf, 論文内容の要旨



学位論文内容の要旨

博士の専攻分野の名称：博士（国際広報メディア）

氏名：藤田 守

学位論文題名

日中両語の音節長の特徴と効率的な日本語発話の基盤形成

—中国語母語話者による適切な CV 音節長とその定着—

本研究は、中国語母語話者の日本語学習者（以下 CNJ）を対象に、中国語の音声的特徴を利用して日本語の音声習得を促進する方法を提案し、その効果を検証した応用言語学研究である。外国語学習者にとって、母語の音韻システムにない第二言語音の知覚・生成は難しいことが知られている。例えば、CNJ の場合、母語の中国語と目標言語の日本語では、音素の調音や超文節的要素が異なる。したがって、日本語発話の際に中国語の発話習慣に基づいて日本語音素の調音や超分節的要素を加工・変換したり、聴取した日本語音声を中国語の音響的特徴を手掛かりに認知したりしていると考えられる。つまり、CNJ が日本語音声を聴取したとしても、母語の音声や発話習慣がその音声の認知や発音の判断材料となることで、発話の基本単位である子音と母音の組み合わせ（以下 CV 音節）の長さの初期状態に、日本語母語話者（以下、JN）との間で齟齬が生じている可能性がある。

音の長さは高さよりも処理に長い時間を要するため、言語普遍的に習得が難しいとされる。仮に、日本語発話の基盤が連続する短い CV 音節であるとすれば、中国語と異なるのでその音声的特徴に対する注意や制御が不十分となり、その結果長すぎる CV 音節長となって現れる。このことにより、記憶可能な時間的範囲を逸脱する語長効果が生じ、学習項目の記憶や定着を阻害したり、特殊拍の習得に影響を与えたりしている可能性がある。

本研究では、中国語母語話者の日本語の音声指導において、日中両語の音節に関する特徴を利用し、CNJ に日本語の CV 音節長が中国語の軽声音節に近いという気づきを与え、より適切な CV 音節の産出を促す指導を提案している。そして、適切な CV 音節長の制御が可能か、更に、導入から再生までの一連の学習過程を思い出し、適切な CV 音節長の再生が可能かという観点から、次の 3 つの仮説を設定している。

仮説 (1) CNJ が産出する日本語の CV 音節長は、語長効果として JN よりも長く、双方に異なる長さの傾向が示される。

仮説 (2) CNJ が産出する日本語の CV 音節長は、日本語の CV 音節と中国語の軽声音節の特徴に関する発音指導を通じて、JN に近づく傾向が示される。

仮説 (3) CNJ は日本語発話に際し、日本語の CV 音節と中国語の軽声音節の特徴に関する指導内容を思い出すことで、JN に近い CV 音節長が再生される。

これらの仮説を検証するために、CNJ 6 名（指導前後）と JN 3 名を被験者群とした準実験研究を実施した。CV 音節/マ/で構成された平らなアクセントによる無意味語を含む日本語発話（単語・文節・短文）で得られたデータを基に、その無意味語の音節長（msec.）を音声解析ソフト Praat で測定し平均値等をまとめた。更に、表計算ソフト excel にて CNJ と JN の CV 音節長分布について χ^2 乗検定で有意差を確認した。以上を踏まえ、博士論文では日本語発話の基盤形成に関わる連続する短い CV 音節について、次の通り論じた。

仮説（1）について、CNJ（指導前）と JN の CV 音節長を比較した。その結果、単語・文節・短文でそれぞれ発話された 1・2 音節語の無意味語について、CNJ は 200msec. 以上の音節長を JN よりも有意に多く産出していた。このことから、日本語の 2 音節語/CVCV/の場合、CNJ の発話では、中国語の 2 音節語/CVVCV/に近い傾向となっている示唆を得た。（仮説（1）を支持する結果）これまで、中国人英語学習者の英語の発音に中国語の音声規則の運用や改変が指摘されているが、CNJ による日本語発話でも、声調が付帯する中国語の音節構造への合致のために、中国語でも日本語でもない近似形の音節長となっていると著者は主張する。

仮説（2）について、中国語の軽声音節長は日本語の CV 音節長に近い傾向があることを踏まえ、中国語の常用語“这个”（訳：これ）の第 2 音節の軽声音節“个”を日本語の CV 音節長の基準として CNJ が発話するよう指導した。具体的には、日本語「マ」「ママ」「マママ」「ママママ」の音声聞き、“个”“个个”“个个个”“个个个个”の要領で内語反復と口慣らしをする指導を受けた（以上、指導 1）。そして、CNJ（指導前・指導後）と JN がそれぞれ普通で発話した 1・2 音節語の CV 音節長を比較し、指導 1 の学習効果を確認した。さらに、仮説（1）で CNJ に確認された指導前の JN との統計的に異なる音節長の分布は、指導後には確認されなかった。この結果は、単語や文節のみならず音節数が増える短文の発話でも概ね同様であった。（仮説（2）を支持する結果）指導前に確認された CV 音節の語長効果の傾向を一定程度抑制した学習効果の要因として、上述の無意味語による内語反復と口慣らしが、中国語から日本語に近い調音基底への移行を促し、適切な発音基準の形成と適切な制御が働いた可能性がある」と著者は主張する。

仮説（3）について、CNJ は無意味語による発話要領（指導 1）を思い出して、普通で発話するよう指導を受けた。ただし、指導 1 で促した内語反復や口慣らしは任意とした（以上、指導 2）。その後、CNJ（指導前・指導後）と JN がそれぞれ普通で発話した 3・4 音節語の CV 音節長を比較して、指導 1 の学習効果の再生が可能かを確認した。その結果、CNJ（指導前）は JN と統計的に異なる音節長の分布となっており、従って、音の長さの特徴が高さの特徴とみなされることで長さの習得が難しくなっている可能性があることを指摘している。一方、指導後は、統計的に異なる JN との音節長の分布はなく、JN に近い適切な音節長の傾向であることを確認した。つまり、連続する短い CV 音節が定着していることが示唆された。（仮説（3）を支持する結果）その要因として、連続する短い CV 音節のパターンをグループ化して自走するリハーサルが CNJ に生じた可能性が挙げられ、日本語発話の基盤が形成されることで、特殊拍の特徴への理解やその習得の前提となりうると著者は主張する。

以上、日本語音声教育に寄与する本研究の成果は、CNJ を対象にした音声指導で、連続する短い CV 音節で構成される日本語発話の基盤形成に関わる学習方略と指導プロセスを示し、その学習効果から定着までを明らかにしたことである。著者は、CNJ には CV 音節を如何に短くするかが長年の課題となっていることや、ベトナム人日本語学習者でも長々と連続する CV 音節の発話が難しいとされていることを踏まえ、こうした問題は漢蔵語系言語を母語とする日本語学習者に共通する可能性がある」と指摘している。ただし、一連の指導を受けていない統制群を設定しておらず、こうした実験デザイン上の不備を解消したうえで、提案する指導とその効果に関する検証を継続することを今後の課題に挙げている。